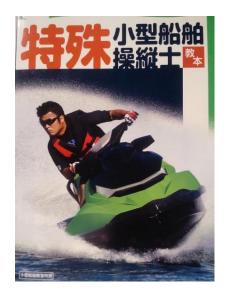
2014年小型船舶特殊免許講習会、試験報告





学科講習 10月17日 場所 渚の交番

実技講習 10月 21.26 日 場所 御前崎マリンパーク西ビーチ

国家試験 10月28日 主催 (一財)日本海洋レジャー安全・振興協会

学科試験場所 御前崎渚の交番 実技試験場所 御前崎マリンパーク西ビーチ

受講者 海上保安庁職員 4名 消防職員 1名 市職員1名

開催の目的 海の安心安全事業の一環にて水上バイクを使った救難活動に参加する仲間を増やす事!

我々の活動に参加したいと思う人が気軽に免許が取れる環境作りをすることが目的です。

この活動は昨年から開催しております。昨年は講習のみ御前崎で行いました。

試験は遠方にて受験しスマイルプロジェクトのメンバー4名が無事合格しました。

喜ばしいことに、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会と船舶免許静岡センターの協力を得て、

ここ御前崎ですべて完結できる、免許試験及び講習を開催する事ができました。

今年度は民間だけでなく公務救難機関の方々も受験して頂け、更に活動の目的に近づいています。

学科講習の様子



小林典太講師(船舶免許静岡センター)による授業 学科講習は予定通り渚の交番で午後1時から開催

船舶免許を既にお持ちの海上保安庁職員さんたちは15時からの開催となった。

実技講習の様子



実技講習は講師として事業運営役員の野口貴史が行いました。

安全なマリンパークとはいえ多少、波や風があるのは御前崎では当たり前の事!! 実際に操縦するであろうこのマリンパークでの実習が今後の技量 UP の役に立つと思います。 しかしながら、少し難しい海面での講習、試験をやることになるので、教える側は合格して頂くために、 時間の余裕がなく、練習時間の短い受講生も多かったので、本番の試験でどうやって、余裕を持たす事ができるか等、不安でいっぱいでした。

国家試験当日

嬉しいことに超快晴の天候に恵まれました。

朝9時集合で国家試験が開始されました。身体測定が終わり9時半からペーパー試験が行われたと思います。 私はマリンパークで実技試験の準備をしていると1時間もたたないうちに皆さんが移動してきました!! 予定以上に早い!!流石でしたね! 受験者の余裕が伺えました。 そして実技テストが開始されました。

実技国家試験の様子



ロープワークから始まりました。一般と違い公務の方達だけあり難なくクリア、全く心配しませんでした。 試験官も上手にあるものを使い試験させてくれます!! 本当に勉強になりますね。



運行前点検の確認点や装備されているものと、元々、ついて無いものなどを試験前に再度、伝えさせて頂けたので、自分でも安心できたことが良かったと思います。点検及び予備艇は、今後、公務の方々にも乗って頂く機会があると思われる、シーバード艇を使わせて頂きました。

実技本番の様子

実習の日よりも穏やかで気持ちの良い中での試験となり良かったです。





マリーナと違い、ここではビーチからのスタート、波やうねりもあります。試験官が丁寧に乗船させてくれ 少し沖合に向かいます。ビーチ際では受験者が皆で協力してくれました。





中にはコースミスや、やり直しが出る場面もありましたが、6人すべての試験が坦々とこなされていきました。 ビーチで待つ受験生の緊張が伝わってきましたが、明るく、平気!平気!とふるまいながら、ちょっと笑いを誘ったり、サングラスを貸すなどして本番の緊張をほぐす為の役に立てたのではないかと私的に思っています。



試験会場である御前崎マリンパーク 西ビーチにある スマイルビーチハウスにて記念撮影!! 画像を見てわかるとうり、試験が終わった後は、笑顔がこぼれていましたね! V サインやガッツポーズが出るほど、自信があったんだね~ (笑)

合格発表

10月30日

船舶免許静岡センターより全員合格の報告を受けました。

やりました!! 受験者の皆様おめでとうございます

これで、昨年度も含め10名の方の免許取得のお手伝いができました。今の所合格率100%(笑)!!

水上バイクという乗り物は正直、悪いイメージもあります。特殊という文字がつく様な特殊な乗り物ですが、誰もが操縦しやすく、御前崎のような風も強く、波高の高い外洋では必要不可欠なレスキュービークルです。 操作技術は基より、操作資格を持つことは、自分の身を守るための手段であり、近年のマリンレスキューでは、全国の多くの関係者が取り入れています。ハワイやオーストラリアの様に当たり前になるのは時間の問題だと思ってます。少しでも活動できる海域を広める事ができる事で、更なる海の安全につながると思います。 我々も免許取得だけでなく、取って下さった仲間と共に、一緒に訓練をしたり、水上バイクでのレスキュー手法を取り入れた訓練講習をもっと沢山行いたいと思っております。

レポート野口貴史



